

原動力は来場者の笑顔

「舞台での登場の仕方を変えただけでも、お客様の反応は全く違ったものになります。毎回の舞台を全力で演じながらも、お客様の心にぐっと迫る演技はどれなのかを考え、芝居に変化を加えています」と話す竹見さん。来場者の心に響く演技を仲間とともに日々追求しています。

「お客様の笑顔が、これからも頑張ろうという原動力になりますね。以前、『落ち込んでいたけれど、舞台を見て元気になれました』という言葉をいただいたときは、本当にこの仕事をしていて良かったと思えました。役者冥利に尽きますね」。

地域に密着した『登別伊達時代村』でありたい

来場者はもちろん、地域とのつながりもとても大切にしているという竹見さん。鬼まつりや地獄まつりなどの市内のイベントにも積極的に参加しています。

「初めてイベントに参加したとき、まちの人の『皆で登別を盛り上げよう』と一生懸命な姿勢に心を打たれ、自分も参加して地域活



▲舞台上に立ち、迫力のショーを披露する竹見さん

性の一助を担いたい、地域の方との交流を通じて登別伊達時代村を知ってほしい、という気持ちを持って持つようになりました」と地域密着への思いが生まれ、たきかけを語る竹見さん。

毎年参加している鬼まつりでは、まちの方と一緒に市内を練り歩き、南京玉すだねなどを披露しているそうです。

「これまで仕事で培ってきた人を楽しませる技術を生かすことで、見てくれる人も喜んでくれますし、まちを元気にする一員として参加できることがうれしいですね。登別伊達時代村が地域の皆さんに愛されるテーマパークであるためには、登別の元気・活性化があってこそだと思っています。」

「これからも地域の方やお客様の『触れ合いやつながり』を大切にしていきます」と話す竹見さん。

「大好きな登別への思いを胸に、今日も来場者を楽しませます。」



KIRARI

たけ み たか ゆき
竹見貴行さん (柏木町)

江戸の街並みや文化を再現したカルチャーパーク『登別伊達時代村』。江戸時代にタイムスリップしたかのようなリアルな雰囲気や迫力のアクション、華麗なパフォーマンスが人気を博し、昨年度の来場者数は30万人を突破しました。

そして、この人気を支えている1つである忍者ショー『忍者かすみ屋敷』で活躍しているのが役者の竹見貴行さんです。

幼い頃から人前に立つことが好きだったという竹見さんは「自分の身体を使って表現することで人を楽しませたい」という思いから、役者の道に進みました。

今回は、入社から21年間、『登別伊達時代村』で役者として来場者を楽しませ、平成25年からは同屋敷の座長としても活躍する竹見さんに、役者としての思いや地域との関わりなどを伺いました。

地域とのつながりを大切に役者として登別を盛り上げたい

昭和50年江別市生まれ。40歳。

北海道野幌高等学校を卒業後、平成7年6月から登別伊達時代村に勤務。現在、同社芸能部門の『忍者かすみ屋敷』で役者として活躍し、来場者を楽しませている。